

キーワード	3 層構造の地域ケア会議、地域のアセスメント、生活・介護支援サポーター、介護予防サポーター、認知症サポーター
-------	--

地域ケア会議を活用した生活・介護支援、介護予防、認知症のサポーター育成と地域力の活性化

秋田県 湯沢市

【この事例の特徴】

主任介護支援専門員が中心となってケースの個別支援と地域課題発見を行う「地域ケア個別会議」、市内 4 ヲ所の在宅介護支援センターで実施する「地域ケア会議」、直営 1 ヲ所の地域包括支援センターで実施する「地域ケア推進会議」の 3 層構造で、課題を明らかにし、解決策を探っている。支援にあたっては生活・介護支援サポーター、介護予防サポーター、認知症サポーター、市民後見人などを育成し、地域の力の活用を図っている。

地域概要

総人口:	50,398 人
65 歳以上人口:	16,443 人(32.6%)
75 歳以上人口:	9,720 人(19.3%)
要介護要介護認定者数:	2,934 人(17.8%)
地域包括支援センター数:	1 ヲ所
第 5 期介護保険料:	4,500 円



背景・経緯

【背景】

- 秋田県湯沢市は 65 歳以上人口が全人口の 32.6%を占め、高齢化率の高い自治体のひとつである。一方、小家族化・家族分散化、また認知症高齢者の増加と、地域力の低下が著しい。公的サービスを利用する人は顕在化するが、制度の間で暮らす人、制度では対応できない支援等が課題として浮かび上がった。これを「湯沢市全体の課題」と位置付け、実施の責任主体は「行政」として、地域ケア会議の活用によって超高齢社会の地域を支える仕組みの構築を目指した。

【経緯】

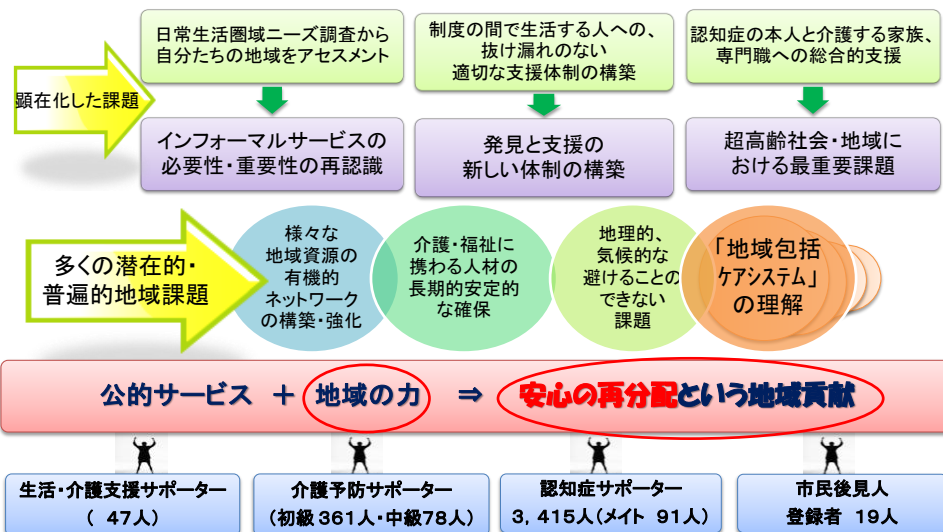
- 以下の事業に採択され、仕組みづくりを推進してきた。
 - ◇ 安心生活創造事業(平成 21 年度～24 年度)
 - ◇ 地域包括ケア推進事業(平成 22 年度～23 年度)
 - ◇ 認知症地域支援体制構築等推進事業(平成 22 年度)
 - ◇ 秋田県認知症をみんなで支える地域づくり推進市町村事業(平成 23 年度)
 - ◇ 認知症施策総合推進事業(平成 24 年度～)
 - ◇ 市民後見推進事業(平成 23 年度～)

取り組み内容と方法

【概要】

- 日常生活圏域ニーズ調査から自分たちの地域をアセスメントし、インフォーマルサービスの必要性、重要性を再認識した。
- 制度の間で生活する人への、抜け漏れのない適切な支援体制を構築するため、発見と支援の新しい体制を構築した。
- 認知症の本人と家族介護者・専門職への総合的支援を、最重要課題と位置づけた。

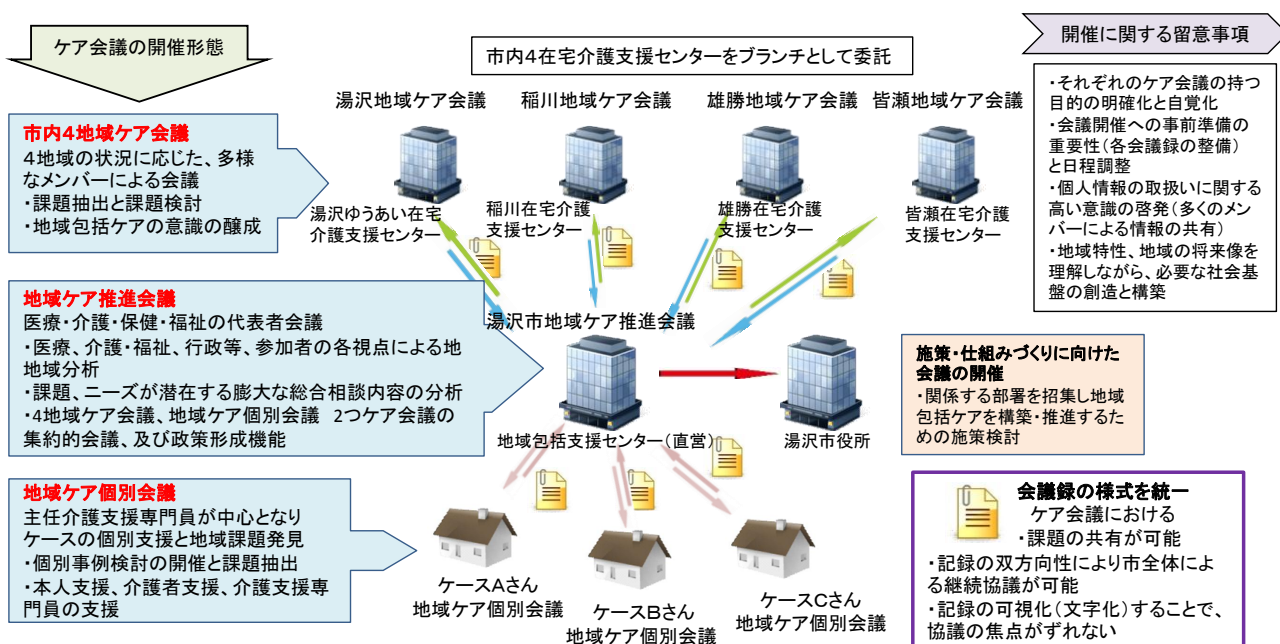
地域ケア会議の活用による「ささえ愛」の地域づくり



【関係機関】

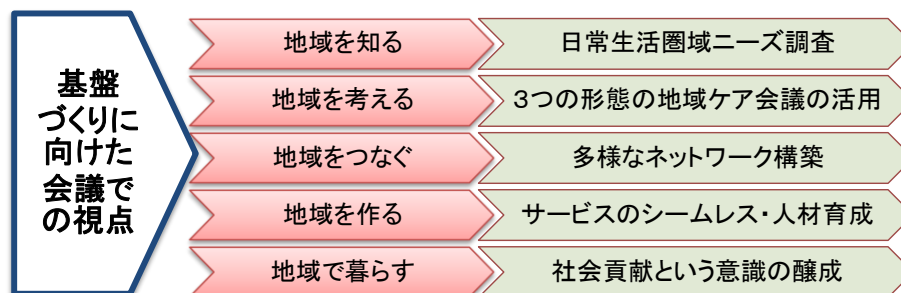
- 地域ケア個別会議、4地域での地域ケア会議、地域ケア推進会議における集約を行っている。

地域ケア会議の体制



- 地域ケア会議では、以下のような視点を重視している。

地域ケア会議における視点



取り組みの成果と課題

【成果】

- 支援者の誕生…各事業から、多くのサポーターが誕生した。これに伴い、地域には社会貢献を希望している人がたくさんいることが明らかになった。
 - ◇ 生活・介護支援サポーター（47人）⇒ 高齢者世帯等への訪問等、地域の支え手
 - ◇ 介護予防サポーター（初級 361人、中級 78人）⇒ 介護予防事業等の支援員・自主活動
 - ◇ 認知症サポーター（3,415人、メイト 91人）⇒ 本人と介護する家族の支援者
 - ◇ 市民後見人（登録者 19人）⇒ 地域貢献・社会貢献を理念とする権利擁護の新たな担い手
- 地域ケア会議が、地域ネットワーク拡大・構築のためのツールとして機能するようになった。地域ケア会議は個人の支援から地域の課題解決・施策形成まで総合的に取り組むエンジンとなっている。
- 地域包括支援センターは直営 1 ヶ所のため、情報の集約力が高く、共有・市役所各部署と直結しているという強みがある。一方で、ランチの 4 ヶ所の在宅介護支援センターとの連携・協力体制を築いている。地域ケア会議の活性化によって、ネットワークの強化につながっている。

【課題】

- 多くのサポーターが誕生したものの、各種サポーターの活躍の場がまだまだ少ないことが課題である。
- 今後、64 歳以下人口の激減が予想されている。また、地理的、気候的な避けられない課題もある。
- 「地域包括ケアシステム」の理解と周知が必要である。

参考 URL、連絡先

- 湯沢市 地域包括支援センター
0183-73-2111